

# 「主体的・対話的で深い学び」を目指した自立活動の指導

～自立活動の時間における指導での遠隔合同授業を活用して～

○高橋 佳菜子 佐々木 高一

筑波大学附属桐が丘特別支援学校

KEY WORDS: 自立活動の時間における指導, 授業改善, 遠隔合同授業

## I. 目的

学習指導要領が改訂され、アクティブラーニングの視点からの授業改善が一層重視されている。2016 年に出された、文部科学省の「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」によると、自立活動の指導においては、「子供たち自身が、どのように成長しているか、より深い学びに向かっているかどうかを捉える学習評価の在り方」の検討が課題として挙げられている。授業者が指導すべき課題を明確にし、適切な指導目標・指導内容を設定していくと同時に、児童生徒が自己を省察する機会を設けながら、指導と評価を一体化させていくことが重要となる。

本研究では、自立活動における、遠隔合同授業を活用した他者との学び合いの有効性を生徒の変容から確かめることを目的とする。

## II. 方法

### 1. 対象クラスと生徒の実態

A 肢体不自由特別支援学校高等部 2 年準ずる教育課程に在籍する生徒 5 名（男子 3 名、女子 2 名）の自立活動の時間における指導を対象とした。

生徒	実態	進路希望
①	男子。疾患による四肢体幹機能障害。電動車椅子を使用。排泄要介助。	大学進学
②	男子。脳性麻痺。電動車椅子使用。排泄要介助。	大学進学
③	男子。脳性麻痺。独歩。ADL 自立。	大学進学
④	女子。二分脊椎。校内では手動車椅子、屋外では電動車椅子使用。車椅子の移乗に要介助。	一般就労
⑤	女子。脳性麻痺。校内では独歩。屋外では電動車椅子使用。ADL 自立。	大学進学

Table.1 対象クラスの生徒の概要

### 2. 対象授業

週 1 単位時間で行う自立活動の時間の指導における中で、Web 会議システム zoom にて、遠隔合同授業（第 1 回：2020 年 11 月、第 2 回：2021 年 1 月）を実施した。

### 3. 相手校（B 特別支援学校、以下 B 校とする）

高等部準ずる教育課程に在籍する生徒 2 名（男子 1 名、女子 1 名）

### 4. 遠隔合同授業のねらい

生徒同士のやりとりを通して、学習上・生活上の困難さに向き合い、対処しようとする意欲を伸ばすことを共通の遠隔合同授業の大きなねらいに設定した。

### 5. その他

授業前の打ち合わせや実施後の評価にあたっては、両校の担当教員と担任とで zoom 等を活用して実施した。

## III. 授業実践

### 1. 単元「自分が創っていく、自分自身の未来①」

#### （1）単元について

B 校の生徒 2 名は、前年度に A 校の 1 学年上の生徒と遠隔合同授業を行っていた。前年度の学習を踏まえ、B 校の生徒は、進路活動と関連させた時間における指導での取り組みの発表をし、A 校の生徒は質問や感想、意見を述べることにした。「新たな視点の気づき」、「思考の深まり」、「新たな考えの形成」（以下、「3 つの期待する効果」とする）と見られる発言やレポートの記述を期待して、授業を計画した。

#### （2）生徒の様子について

A 校の生徒から、「自分はそのような視点で考えたことがなかった」「考え方を参考にしたい」など、「新たな視点への気づき」とみられる発言や記述が見られた。一方、「思考の深まり」「新たな考えの形成」に分類される発言・記述はあまり見られなかった。また、主体的なやりとりにつながりにくい様子が見られた。

#### （3）授業の評価と改善に向けて

（2）の要因を「異なる状況下をイメージしたときの自己理解の不十分さ」とし、生徒の実態を捉えなおした上で、時間における指導では以下の指導の工夫を講じることとした。

##### ①生徒の経験から具体的な場面を設定する

「学ぶ」「働く」「暮らす」の具体的な場面から、現在の自己の困難さや理想とする自立の在り方を担当教員と深める時間を設けた。

##### ②クラス内で考えや意見を発表しあう場面を設ける

①の学習活動で深めたことを発表しあう時間を設けることで、自分を基準とし共通点や相違点を考え、自己理解が深まるようにした。

### 2. 単元「自分が創っていく、自分自身の未来②」

#### （1）単元について

A 校の生徒 5 名が、自立活動の時間における指導 1 年間の取り組みについて話題提供し、両校の生徒同士がやりとりする時間を設けた。

#### （2）単元①②を通した生徒の変容について

生徒の授業内での発言や授業後のレポートの記述を、「3 つの期待する効果」に分類し、評価した。自己の考えと関連させた発言・記述には◎、自己との関連は薄い効果がみられたと考えられる発言・記述には○、表出自体がなかった場合には×とした。

生徒	新たな視点の気づき	思考の深まり	新たな考えの形成
①	○→◎	×→◎	×→◎
②	○→◎	×→◎	×→◎
③	○→◎	×→◎	×→◎
④	○→○	×→×	×→○
⑤	欠席→◎	欠席→×	欠席→◎

Table.2 生徒の発言等の変化（1 回目→2 回目）

## IV. 考察

第 1 回の遠隔合同授業での評価が、時間における指導での目標・指導内容の具体化や指導方法の再検討につながった。第 2 回の遠隔合同授業では、主体的なやりとりだけでなく、発言や記述から「3 つの期待する効果」が見られるようになった。自立活動の遠隔合同授業を通じた一連の指導の工夫は、「主体的・対話的で深い学び」の実現に有効であったと考えられる。

一方で、発言や記述からは「3 つの期待する効果」が見えにくい生徒がいたり、対象クラス全体的に、将来の目指す姿と現在の自分とをつなげて思考しにくい様子が見られたりした。評価方法や高等部卒業後の生活を主体的に構築していくための進路指導等との関連については、今後の課題としたい。

(TAKAHASHI Kanako, SASAKI Koichi)